

文化・社会におけるジェンダー秩序の検討

研究代表者 杉原名穂子

1. 分担者

中村 潔
渡辺 登
松井 克浩
古賀 豊
北村 順生
三谷 武司
杉原 名穂子

2. 協力者・所属

佐山光子 (医学部)

3. 2008年度の研究活動の概要

2008年度は研究会を開催し、ジェンダー研究の教育的および社会的意義について検討した。杉原名穂子は「日本におけるジェンダーの研究の展開」という報告で20年以上におよぶ日本でのジェンダー概念の展開と変遷についてとりあげ、今後の教育活動にジェンダー論がどのようにいかせるかについて議論した。松井克浩は「震災とジェンダー」というテーマで、中越地震および中越沖地震における調査結果について報告を行い、地域問題に取り組むうえでジェンダーの視点がどのように有効か参加者で検討を行った。

プロジェクトメンバーはそれぞれ個別に調査研究活動を行い、その成果を公表した。渡辺登は韓国において放射性廃棄物処理場建設反対運動の主体としての女性を対象に調査を行いその成果をまとめた。また杉原、三谷武司も成果の公表を行った。

4. 2008年度の研究成果の概要

渡邊登, 三谷武司がそれぞれ研究論文を発表した。杉原名穂子は文部科学省科学研究費補助金で行った調査にもとづいて学会報告を行った。

5. 2008年度の研究成果の一覧

渡邊 登, 「韓国における地域社会のイニシアティブと市民運動 - 韓国全羅北道扶安郡放廃場建設反対運動を事例として」『ヘスティアとクリオ』No.7, 2008年8月, 41-59頁。

三谷武司, 「社会システムと法, 経済」, 『社会福祉学習双書』編集委員会(編)『社会福祉学習双書2009 12 社会学』全国社会福祉協議会, 2009年3月, 57-73頁。

杉原名穂子, 第81回日本社会学会大会発表「教育意識・教育行動の地域差(1)-地域・階層・ジェンダー-」2008年11月23日~24日, 於東北大学。